

野呂川河川改修工事に伴う説明会 議事概要

日 時：令和3年11月21日（日）10：30～12：00

場 所：安浦まちづくりセンター きらめきホール

出席者：約30名

事務局：広島県西部建設事務所呉支所長 他

■事務局説明：野呂川河川改修工事について資料－2により説明

■質疑応答：下記のとおり（○：出席者からの発言，●：事務局発言）

- 上流側の川への搬入出路に野生動物の侵入防止対策はされますか。夜間にイノシシ等が搬入出路から入るため、対策をしていただきたいです。
- トラロープ等で人の立入防止は行いますが、野生動物の侵入については考えておりませんでした。意見を踏まえて、また設置後の状況を見て、野生動物に対する対策を検討します。

- 補強コンクリートで護岸を押さえると説明されていますが、既存の石積みについては大丈夫でしょうか。将来的に、石積み部分にコンクリートを全部施工すればいいとも思います。
- 既存の石積みが傷んでいる部分があることは県でも認識しており、石積みの状態によっては補強する必要があると考えています。しかし、全箇所コンクリートを張ると川の断面を狭めてしまうこともあるので、施工する中で石積みの状態を確認して対応していきます。

- 工事車両の通行の予定についてお伺いします。工事のお休みの日は決まっていますか。また、予定外の工事車両の通行はありますか。ある場合は沿線住民にどのようにお知らせしますか。
- 基本的に日曜日は休日としており、工事車両の通行はありません。土曜日は施工業者のカレンダーで休日であれば休みです。ただ、工事の進捗状況の関係から予定日以外に工事車両が通行することも想定されますので、そのような場合は工事車両通行ルートに沿線住民に対して、個別訪問や案内文をポスティングする等の対応を検討します。

- 補強コンクリートを両岸するように説明をされていたが、断面図に黄色で記載されている部分と川底全面にコンクリートを張るのでしょうか。下流側にいくほど水の流れが速くなると思いますが、水の流れを抑制する対策、堰等の対応はされるのでしょうか。
- （補強コンクリートの施工範囲を資料の断面図により説明した上で）川底にコンクリートの施工は行いません。今回の工事の目的は、川を掘り下げ、河川の断面を拡げることであり、

（次ページに続く）

補強コンクリートは既設の護岸が転倒しないように保護するために施工するものです。補強コンクリートの大きさについては、横幅 1m, 下側は掘り下げた川底から 1m 下まで入っていれば、護岸の転倒を防ぐことができると考えています。水の流れを抑制する対策としては、施工区間内の河川の河床勾配を概ね一定にとり、流れが急になるところが無いようにします。また、多自然な川づくりという考え方があり、今ある川底をなるべく残しておいた方が良いという考え方もあります。河川内にある程よい大きさの石については、生物の生息への配慮もあり、河川内に置いておくことで流れを抑制するよう整備していきたいと思えます。

- 護岸のかさ上げの説明がありましたが、かさ上げの高さはいくらになりますか。また浚渫はされるのでしょうか。今回説明された内容では、河川の断面積が何%上がって、どのくらい安全度が上がったのかが分からないので教えていただきたいです。
- 内海大橋の下流から永代橋までの区間の嵩上げですが、橋と橋の間の護岸が下がっている形状になっているため、下がっている部分に対して嵩上げをしようと考えております。高さはおおよそ 50 cm程度と想定しており、詳細は施工業者に改めて測量していただき、対岸の高さに合わせるようにして決めたいと思えます。浚渫については 50～60 cm程度行います。また安全度について、その数値は持ち合わせていませんが、河川整備計画区間で最も断面の小さい JR の位置での断面において、工事前は毎秒約 100m³ の水量しか流せなかったのですが、工事後は毎秒約 120 m³ 流せるようになると考えています。
- ダムの運用ルールの変更で、ゲートの開きを 42 cmから 67 cmにすると説明されたが、施工区間より上流側の野呂川ダムまでの改修しない区間についてはどれくらい水位が上がるのでしょうか。また、その区間においては石積護岸に木が生えていたり、ツタが茂ったりしている状態もあり、そのままで水量だけ増えて護岸は耐えられるのでしょうか。
- 野呂川・中畑川の野呂川水系全体として、川からの越水、溢れることによる家屋浸水被害を防止するという目標にしています。平成 30 年災害時に原畑地区で越水したことは県も認識しておりますが、水系全体を考えたときに優先度をどうするかという中で、まずは人命を守ることを最優先し現計画に至りました。限られた予算のなかで野呂川・中畑川で整備計画に基づく施工区間を整備し、野呂川水系全体として人命を守る対策を行うよう考えております。改修していない区間の護岸の弱いところについては、個別に維持修繕で対応するなどを検討していく必要があると考えております。またゲートの開きを大きくすることで、水位がどの程度上がるかについては、資料がないため、意見として持ち帰って参考にさせていただきます。

- 中畑川と野呂川の合流点下流で川幅が細くなっており、その付近に土砂の堆積が目立つので将来的にでも浚渫していただきたいです。
- 野呂川と中畑川の合流点下流に土砂が堆積していることは認識しております。中畑川合流点下流の土砂については、下流側の川への搬入出路をつくる際に盛り土として利用し、最終的には撤去を行います。

- 平成 30 年豪雨災害発生時から、野呂川ダムから施工区間に至るまでに大岩が河川内に放置されています。今後ダムの運用ルールの変更で水量が増えますが、その大岩等への対応をしないと施工区間の整備効果を得ることは難しいのではないかと思います。
- 今後も大岩や土砂が堆積していくことは十分に考えられます。対応としては、維持管理の観点での取組になりますが、川の状態を見ながら断面を狭めている要因となっている大岩や土砂を撤去する取組をしていきたいと考えています。

- 今回の野呂川の河川改修工事の設計で、満潮時に潮が河川内のどこまでくるか確認はされていますか。また、満潮時に平成 30 年災害規模の水量を流したら、どこかの護岸に負担が生じると思いますが、水量の流し方をどう考えていますか。
- 野呂川改修工事の設計において、潮の考慮はしております。潮を考慮した上でゲートの開きを変更します。現在中畑川の設計をしておりますが、潮の関係も含めて考えていかなければならないと認識しております。

- 川を掘り下げるとのことだが、泥が下流へ流れ出ない対策はどのように考えられていますか。牡蠣の種に影響があるため、漁業関係者へ説明する機会をつくっていただきたいです。
- 工事による濁りへの対策は、下流側に汚濁防止膜を設置することを考えています。また工事中の濁りの状況にも注視しながら施工をしていきます。漁業関係者に対しては、既に個々に説明に伺っているところです。今後も密に情報を共有しながら、工事を進めていきたいと考えております。

- 野呂川の下流でシラウオ漁をされている人がいますので、そちらへも工事の説明をする機会をつくっていただきたいです。
- シラウオ漁をされている方に対しては、事前に説明に伺っております。川への搬入出路に近いところになるので、工事に関するご意見もいただいております。意見を踏まえた上で工事を進めていきたいと考えております。